

平成 30 年度第 1 回川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会 議 事 要 旨	
日 時	平成 30 年 8 月 24 日 (金) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
場 所	川西町役場 2 階 201 会議室
出席者	別紙名簿参照
次 第	1 開会あいさつ 2 委員紹介、会長・副会長選出 3 議事 (1) 認知症初期集中支援チームについて (2) 事例報告 (3) 認知症初期集中支援チームの活動について
資 料	○次第 ○川西町認知症総合支援事業実施要綱 ○川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会・チーム員名簿 ○認知症初期集中支援チーム検討委員会 ○川西町認知症初期集中支援チームのフローチャート ○事例 A、事例 B ○座席表
議 事 録	
事務局	1 開会あいさつ  本日は、お忙しいなかお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。 ただいまより、平成 30 年度第 1 回川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催いたします。 まず、はじめに、お手元の資料の確認をお願いいたします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本日の委員会次第</li> <li>● 川西町認知症総合支援事業実施要綱</li> <li>● 川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会・チーム員名簿</li> <li>● 横長ホッチキス止めの認知症初期集中支援チーム検討委員会</li> <li>● 川西町認知症初期集中支援チームのフローチャート</li> <li>● 事例 A と事例 B</li> <li>● 座席表</li> </ul> の全部で 7 つとなっています。

## 2 委員紹介、委員長・副委員長選出

検討委員会委員のご紹介をさせていただきます。

事務局側から向かって左側（窓側）から一般財団法人信貴山病院  
ハートランドしぎさん認知症サポート医の田村様です。

（田村委員）

よろしく申し上げます。

（事務局）

同じく認知症認定看護師の青川様です。

（青川委員）

よろしく申し上げます。

（事務局）

訪問看護ステーションデューン樫原看護師の宮川様です。

（宮川委員）

よろしく申し上げます。

（事務局）

奈良県中和保健所保健予防課長の大門様です。

（大門委員）

大門です。よろしくお願いいたします。

（事務局）

次に、こちらから向かって右側（廊下側）に移りまして、川西町  
社会福祉協議会社会福祉士の米田様です。

（米田委員）

米田です。よろしく申し上げます。

（事務局）

同じく介護支援専門員の中尾様です。

（中尾委員）

中尾です。よろしく申し上げます。

（事務局）

川西町地域包括支援センター保健師の湯浅様です。

（湯浅委員）

湯浅です。よろしく申し上げます。

（事務局）

川西町保健センター保健師の野村様です。

（野村委員）

野村です。よろしく申し上げます。

（事務局）

議事2における事例B担当者として、認知症初期集中支援チーム  
員の川西町地域包括支援センター長の八十田様です。

	<p>(八十田チーム員) 八十田です。よろしくお願いします。</p> <p>(事務局) 次に、事務局の紹介をさせていただきます。長寿介護課課長補佐の栗林です。</p> <p>(栗林課長補佐) 栗林です。よろしくお願いします。</p> <p>(事務局) 長寿介護課主任の河田です。</p> <p>(河田) 河田です。よろしくお願いします。</p> <p>(事務局) そして、本日の進行をさせていただいております長寿介護課課長の岡田です。 どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>今回の川西町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員及びチーム員の皆さまにつきましては、川西町認知症総合支援事業実施要綱第6条及び第12条の規定に基づき、任命又は委嘱させていただいております。</p> <p>任期は3年となっております、今回の委嘱期間におきましては、平成30年4月1日から平成33年3月31日までの3年間となっております。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、川西町認知症総合支援事業実施要綱第12条第3項の規定に基づき、本委員会の委員長及び副委員長の選任をさせていただきます。</p> <p>委員の皆様方で委員長にご推薦をいただける方はおられますか？</p>
野村委員	田村先生にさせていただいてはどうでしょうか。
湯浅委員	それがいいと思います。
事務局	他にご推薦はありませんか？
<な し>	
事務局	ないようですので、田村委員に委員長をお願いしてよろしいでしょうか？
各委員	異議なし
事務局	異議ないということで、それでは、田村委員を委員長に選任させていただきます。 次に、副委員長にご推薦いただける方はおられますか？

中尾委員	米田さんにしていただいておりますでしょうか？
湯浅委員	それがいいと思います。
事務局	他にご推薦はありませんか？
<な し>	
事務局	それでは、ないようですので、米田委員に副委員長をお願いしてよろしいでしょうか？
各委員	異議なし
事務局	それでは、米田委員を副委員長に選任させていただきます。 よろしくお願いたします。 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が職務の遂行が困難な場合にその職務を代理していただくこととなります。  それでは、田村委員、委員長席に移動をお願いします。
< 田村委員が委員長席に移動 >	
委員長 (田村委員)	ただいま、ご推薦いただきました田村でございます。 今後、この会議を進めさせていただきます。皆様のご協力をいただきながら円滑に進行させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。
委員長 (田村委員)	3 議事  それでは、議事を進めてまいりたいと思っております。 「議事(1)」について事務局より、「議事(2)」についてチーム員より説明をお願いします。
事務局	それでは、議事1について説明させていただきます。 議事1については、認知症初期集中支援チームについてということで、資料は横長のホチキス止めの「認知症初期集中支援チーム検討委員会」をご用意ください。また、川西町認知症初期集中支援チームのフローチャートもあわせて置いていただけると見やすいかと思っておりますので、よろしくお願いします。 資料の右下のページ番号で進めさせていただきます。 昨年8月に認知症初期集中支援チームを皆様のご協力により、地域包括支援センターに設置することができました。設置当初に検討委員会を開催し、約1年が経とうとしています。1年ぶりの会議ですが、昨年の検討委員会において、事例が出れば1年後に開催することになるとお伝えしており、本日の開催となった状況です。 今回は昨年8月から現在に至るまでの初期集中支援チームとして関わったケースとして検討していくこととなりますが、ケースについてどのように検討していくかという視点について、まず説明させ

ていただきたいと思います。

資料2頁をご覧ください。平成29年度の初期集中支援チームの作業工程についてですが、大きく3つに分けています。左側に点々で3つに区切られている部分になり、事業の準備、事業の実施、評価の3つに分けています。事業の準備については、1番の広報活動から3番の対象者の把握までです。事業の実施については、3番の初回家庭訪問の実施から8番の引き継ぎのモニタリングまで、そして9番が評価となっています。このように3つに分けさせていただきまして、検討していきたいと思っています。事業の実施の4番から8番が、先ほど一緒に置いてくださいとお伝えしたフローチャート内の初期集中支援チームの丸い四角で囲っている所の活動内容に当たります。この真ん中の部分に該当しますが、この部分については後ほど活動報告として報告していただきますので、その際にこのフローチャートを参考資料としてご覧いただければと思います。本日の検討委員会としては9番目に当たる評価として意見交換できればと思います。

次に3頁をご覧ください。検討委員会の役割については、初期支援チームの設置や活動状況について検討し、地域の関係機関や関係団体と、一体的に当該事業を推進していくための合意が得られる場となるよう努めることにあります。ここで意見交換をさせていただいたうえで、社会福祉協議会や保健所の方も来ていただいていますので、関係機関との調整にも役立つ場であると考えています。

4頁については、具体的な役割について3つ記載しております。

1つ目としては、検討委員会では、初期集中支援チームが行う業務の評価を行って意見を述べ、適切、公正かつ中立な運営の確保を目指す役割が求められています。2つ目としては、評価結果を次年度の事業に反映したり、よりよい取り組みを関係機関に拡大したり、各機関に必要な支援を提言及び実施したりすることが期待されています。3つ目としては、市町村が地域包括支援センターに提示した業務の実施方針に基づいて事業が適切に実施されているかどうかについても評価し、不十分な点などがあれば、その改善の方策を探ることが必要となってくるというような3点になっています。この3つ目については、主に町の役割が大きいと思っています。このことを踏まえて、会議を進めていければと思っています。この役割を前提としまして、検討委員会の評価の視点を次の5頁にまとめています。視点としては、2つ記載させていただいています。一つ目としては、初期集中支援チームがどのような目標をもって業務に取り組んだのかといったところで、ケースの目標であったり、目標に対する支援内容について、その関わった職種や内容や時期が適切に行われてい

	<p>たのかといったところです。2つ目としましては、どのような成果を得たか、あるいはどのような課題が残されたかを互いに協力して明らかにすることを重要としています。これについても、個別ケースを通しての成果や残された課題がどういったものがあるのかといったところを皆さんと一緒に検討していくことで、より良い方向に向かっていけるのかと考えています。</p> <p>それでは、私の方は以上ですが、次にチーム員から事例の報告をお願いします。</p>
チーム員	<b>【議事2の事例報告については、個人情報に関わる内容のため省略】</b>
委員長 (田村委員)	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、何かご質問はありますか？</p>
＜質問なし＞	
委員長 (田村委員)	<p>ないようでしたら、続きまして、「議事（3）認知症初期集中支援チームの活動について」、委員の皆様との意見交換に入りたいと思います。</p> <p>何か今回の事例について気になられたことがあれば、このように関わればよかったのではないかという点についてもご意見があればお話しただければと思います。</p>
長寿介護課	<p>このケースは二人とも専門医にかかれていないことがあったと思うのですが、目標的などころとして専門医の受診を目標として、そこから方向性をどういうふうに見ていったのかを聞かせていただければと思います。</p>
湯浅チーム員	<p>Aケースについては、専門医がどうかといった段階ですらなく、家で一緒に暮らすといったこと自体がとても無理という状況で、方向性としてはお互いに安全に離れて過ごしていただくことが急務といった状況でした。田村先生からも、かなり追いつめられている状況なので入院を念頭に置いての受診をとおっしゃってくださったので、受診の際にはご家族はそのつもりで一緒に行ったという形です。</p> <p>事例Bに関しても事例Aと似ている部分があるかもしれませんが、本人の暴力や暴言に同居の奥さんが怯えている状況ありましたので、お二人が離れて過ごせる時間をつくるのが急務であろうということで最初に先生へご相談させていただきました。お二人だけでは、入院という形で離れたかと思いますが、長女さんが何度も来て関わってくださって、長女さんのご意見も反映され、在宅での生活希望ということで、なんとかならないかという方向に変わっていったところがあります。</p>

長寿介護課	どちらかという専門医の受診を目標にというよりは、どちらのケースも分離が必要なケースで、そこに専門医が入ってもらってという流れができたような感じですかね。
八十田チーム員	まずどちらの方も受診をされていなかったケースです。 そもそも認知症なのかどうか、どの程度の認知症で現在周辺症状がどこにあるかというところもつかめない状況であったため、それをご家族に説明する際に専門医にきちんと診ていただいて説明していただけた方が、ご家族の方もご理解いただけたといったところもあったかと思います。
長寿介護課	ありがとうございます。
委員長 (田村委員)	他に何かご意見等ございますか？
＜意見等なし＞	
委員長 (田村委員)	<p>それでは、最後に私の方から少しお話をさせていただきます。</p> <p>この2つの事例については、最初にこういう形で困ってらっしゃるということで連絡が私の方に入りました。先ほど評価尺度として介護負担尺度ということが出ていましたが、両方の事例ともに満点ということで、もう家族のサポートのみでは無理ですということで来院されました。実際、私共の地域医療連携室からしても入院が必要ではないのかなということで当初連絡を受けておりました。</p> <p>実際、Aの事例の方に関しては診察させていただきまして、入院して薬物療法と精神療法をしながらより良い形を探っていく方向になりました。先ほど八十田さんからお話しがありましてとおおり、同じ評価のスコアリングで満点であっても、家族の関わり方やサポートの在り方ひとつで容態は変わってくるということも出てきます。私共としては医学的な観点からこの方にどのように対処していこうかという考えを勧めていきますが、やはりご家族の方にお話のあったとおおり、どういう風にご本人をサポートするのかというのは人それぞれ違うと思いますので、そのところで皆様それぞれ視点や観点からこういったこともできますよ、こういったことも提示できますというところをその都度関わったご家族の方にお話しいただければと考えております。今回の事例でもこういった形で（介護負担尺度が）満点であっても、一方は外来で通いながら落ち着いてくる、退院後に老健施設若しくはグループホームに行くような方向性になると大きく分かれるところであります。認知症というご病気自体がご本人自身も非常に大変なのですが、サポートする方々も非常にお困りで疲弊してしまうという難しいご病気ですので、やはり医学的観点のみからだけではなく、介護の観点、そして行政からの観点で</p>

	<p>         こういう引き出しもありますよ、こういうやり方もありますということ         で多角的にいろいろな考えをご提示していただければ、Bのような外来に通うだけでOKのような事例も出てくるのではないかな         というふうに考えております。ぜひとも先ほど質問がありましたが、医療機関を受診してどうなるかではなく、どういった形でご本人         さんをサポートしていくのか、しかもご家族さんだけではなく、いろいろな人の協力を得て巻き込むことにより、それぞれの方の負担         を減らしていくというところをいかにして成し遂げていくのかということが非常に大事になってくると思います。そういったアプローチを         少し意識づけしていただければと感じました。頑張っって耐えてなんとか認知症を乗り越えていこうと思われていらっしゃるご家族         の方に対していろいろな引き出しがあるということをご提示し働きかけていただけることをこれからも続けていただければと考えま         す。       </p> <p>         私の方からは以上です。       </p> <p>         以上をもちまして、本日の会議の議事については、皆様のご協力により全て終了いたしました。       </p> <p>         ありがとうございます。       </p>
事務局	<p>         ありがとうございます。       </p> <p>         以上をもちまして、平成30年度第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会を終了いたします。       </p> <p>         お手元の資料ですが、事例報告のAとBにつきましては個人情報         の取扱いとなりますので、回収させていただきます。持ち帰らずにそのまま机の上に置いておいていただければと思います。よろしく         お願いいたします。       </p> <p>         本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、また、田村先生、ご貴重な意見をいただき、ありがとうございます。       </p> <p>         検討委員会につきましては、年1回もしくは2回を予定しております。       </p> <p>         年度内に事例があり、検討委員会の必要が生じた場合に開催する可能性もありますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたしま         す。       </p> <p>         ありがとうございます。       </p>